

被災地フィールドワークの紹介（いわき市の場合）

- *いわきマリンタワー:美しい公園の真ん中に建つタワーに登るといわき市全体が一望出来る。眼下に広がる海と港は絶景。
- *食品放射能計測所:いわき市にあるプロテスタント諸教会が立ち上げた「いわきCERSネット」によって営まれている。
- *津波被害跡:豊間、新舞子、久ノ浜など、それぞれの集落によって津波の被害状況は異なる。現地に住んでいる人がガイドとなり、説明して下さる。
- *いわき海浜自然の家:夜、漁業関係者が来てくださり、津波や原発事故における現況をお話しして下さる。その後は分かち合いの時。朝は牧師による奨励の後、小学生も中学生も全員で祈る。施設は広々としており、「研修室や体育館などの利用は無料」と使い勝手がよい。
- *もみの木:カトリック埼玉教区が、現地のカトリック教会やボランティアグループと立ち上げた仮設住宅支援の為の施設。もみの木では美味しいコーヒーをいただきながら、現地のカトリック教会、傾聴ボランティアグループ、埼玉教区の取り組みをお聞きする。その後、花壇作りを行う。
- *仮設住宅:もみの木の向かいにある仮設住宅を訪れ、部屋や集会所にあがらせていただいた上で、仮設住宅に住んでいる人(檜葉町や双葉町から避難して来た人)からお話を伺う。
- *ら・ら・ミュウ:小名浜港にある立派な魚市場。ただし、現在取り扱っている魚は他の地域から運ばれてきたものばかり。魚市場の2階には、放射能線量が高い為、外で遊ぶことの出来ない子供たち用の屋内遊技場が併設されている。



皆さんの教会でも、被災地フィールドワークを計画してみませんか！